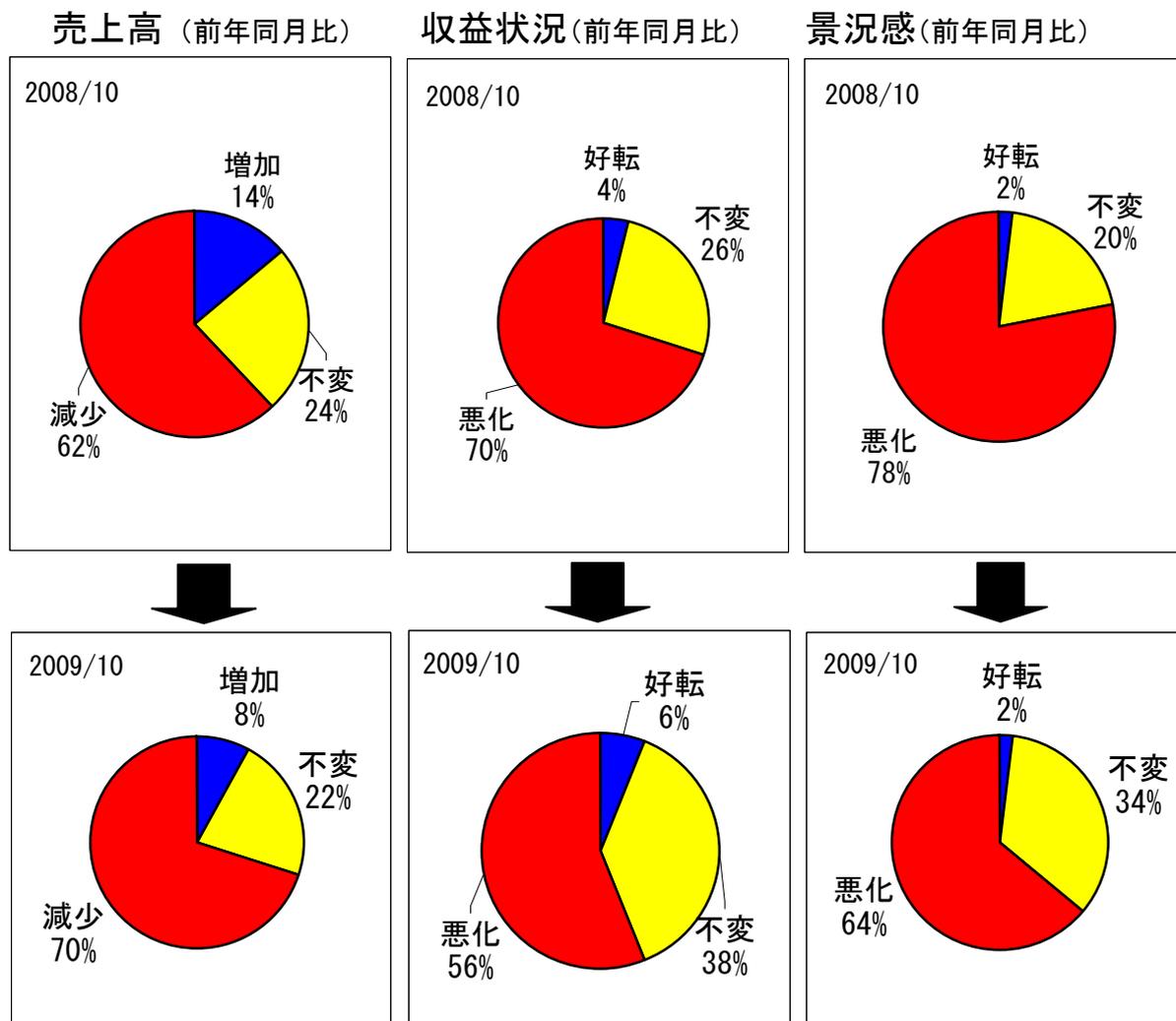


データから見た業界の動き (平成21年10月分)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	08/10	09/9	09/10	08/10	09/9	09/10	2008/10	2009/9	2009/10
対前年,前月,当月									
売上高	-55	-55	-70	-43	-23	-57	-48	-36	-62
収益状況	-65	-40	-60	-67	-43	-43	-66	-42	-50
景況感	-80	-60	-75	-73	-50	-53	-76	-54	-62

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の10月の景況は、全業種のD I値では、売上高-62（前年同月比-14）、収益状況-50（前年同月比+16）、景況感-62（前年同月比+14）と売上高を除いては、収益状況と景況感ともに前年同月比でポイントが改善し、プラス水準を維持しているが、前月比では全項目でD I値が悪化している。

業種別のD I値で見ると、製造業は、売上高-70（前年同月比-15）、収益状況は-60（前年同月比+5）、景況感-75（前年同月比+5）と、前年同期比では、売上高がマイナスとなったほかは、わずかであるがD I値に改善が見られた。前月比では、全ての項目でマイナスとなった。

非製造業のD I値は、売上高-57（前年同月比-14）、収益状況-43（前年同月比+24）、景況感-53（前年同月比+20）と製造業と同様に売上高以外は、年同月比のD I値は大幅に改善している。前月比では、収益状況のみが同ポイントを維持した以外は悪化傾向にある。

前月9月期では、一部業界でシルバーウィーク効果や、公共工事の前倒し受注等のスポット的売上げ増加により、予想以上のポイント改善が見られたが、10月調査では、各業種の実情に即した結果となり、3ヶ月連続でプラス推移を続けてきたD I値は、7月期の水準まで逆戻りした感がある。

連絡員からの報告コメントからも、県内中小企業にとっては、先行きの見えない厳しい経営環境が依然として続いている。

■ トピックス

■今回は、各業界、組合が抱える課題に対して、どのような取り組みを行っているか、必要となるのか、課題と対応とその必要性について聞いた。主な報告は次のとおり。

【製造業】（食品製造）「組合員の業績悪化に伴う借入難が課題。今後、組合の総合力強化と活用が必要」（繊維製品製造）「下請加工から一部でも自社で売る販売部門を作ること」（印刷）「業界でCO2削減へどのような取り組みが図れるのか検討し、対応を模索する」（窯業土石）「出荷実績が落ち続けているため、出荷数量の調整を考え直す必要あり」（その他）「売上げ減少に伴うリストラによる雇用問題が深刻化。ジョブ制度の柔軟な対応に期待。」

【非製造業】（商店街）「安全安心のまちづくりとして、監視カメラの設置などを検討中」

（建設業：職別工事）「組合員の廃業による脱退が増加。出資持ち分の返済資金の調達に苦慮し、組合運営が困難となっている」（建設：設備工事）「行政業務を民間にアウトソーシングしていく流れは加速していくと思われる。共同受注の観点から、いかに組合のメリットを抽出し、競争していくかが課題となる」

■ 業界の声

■ 製造業

- **食料品（水産物加工）**／婚礼用食材及び百貨店、スーパー向けギフトが不振、特に高額商品の動きが低調で売上は前年同月比73%。
- **食料品（洋菓子製造）**／輸出は円高で不振。また自社ブランド製品も低調。大手メーカー向けOEMは若干の売上増加となったが、全体の売上は前年同月比96%と低調。
- **食料品（菓子）**／消費者の買い控えが目立つ。世間の景気の悪さを感じる。
- **食料品（ワイン）**／10月下旬ワイン業界はヌーボーが仕上がる。以後、ワイン祭り等が催されるが、これらのイベントを成功させて業界振興に繋がるか期待している。
- **繊維・同製品（織物）**／低価格競争の中で県産品は大変厳しい。以前ならば差別化商品、すきま商品を作れば値段が多少高くても動きはあったが、現状は非常に難しい状況。
- **繊維・同製品（アパレル）**／低水準で下げ止まり。（昨年11月より急激に悪化した水準のまま）
- **木材・木製品製造**／10月は夏に比べるとよい結果となった。今年中は見積り量からみても平年以上になる見込み。来年は見通しつかず。木材需要は相対的に減少している。更に事業見直し(国)の影響が今後どのように現れるか不安。
- **家具製造**／景気の悪化に伴い、住宅、家具のような大型消費財の動きは非常に悪い。消費が増えないため物価が下降している。
- **紙・紙加工品**／景況感は前月とかわらず。原燃料は上昇基調。
- **印刷**／景気低迷については相変わらず何も改善されていない。中小企業は何とか会社を運営している状況で最悪な事態も考えている。
- **窯業・土石（砂利）**／今年度だけで考えると売上高は徐々に上昇しているが、対前年比で見ると16.6%の減少となっている。工事は発注されても冬季の着工が多く、骨材の需要には結びついてこない。11月から着工する工事も多く来年3月末までは売上高も順調に推移する見込み。その後は、高速道路のトンネル工事も着工されるため本年より幾分上昇を期待。
- **窯業・土石（生コン）**／組合非加入の業者の安価での販売により出荷が減少し、組合加入のメリットが薄れつつある。
- **鉄鋼・金属**／10月は、11月初旬納品分の受注があり一時的に操業状態が改善された。しかし、今後の受注は未定。最悪期は脱したようだが回復の足取りはかなり弱い。
- **一般機器**／工作機械はまだ動きが鈍い。短期的には、太陽光発電関係で忙しくなったが、継続性は不明である。売上アップは来月から。
- **電気機器**／9月と同様に一過性の受注はあるが、持続性は無し。10月は若干の動きもあったかと思われたが、小刻み、少量、短納期で生産性は悪く、売上が伸びないため、依然厳しい状況にある。見積りも、一時期に比べ増えているようであるが、なかなか決まらない。（メーカーの都合でより多くの見積りを取るため）決まったとしても、相手方の指値で発注されるため、利益に結びつかない。これから先もこういう状況は続くため、より慎重な取り組みを要す。
- **その他(貴金属)**／当業界は他と違って贅沢産業とも言われており、不必要な部分が多く直接の景気回復には結びつきにくい。また金融機関の締め付けもあり、悪化の一途をたどっている。先の見通しは全く立たない。

■非製造業

●卸売（紙製品）／中国の需要が僅かながら好転するも、価格については依然低調。年末は需要とも悪化の見込み。

●卸売（宝飾）／生活不安、個人所得の減少、経済の落ち込みの二番底などまだまだ経済の回復は望めない。そのため個人消費は抑えられる。幅広く本来の景気回復が実現しないと厳しい。

●小売（SC）／全体的に、厳しい経済状況が続いている。そんな中にも伸びている店、落ちている店は相変わらずあり、落ちている店は何らかの点での原因も見受けられる。努力すれども、成果は上がりずイライラが続く。

●小売（食肉）／長引く経済不況のため、牛・豚ともに消費が伸びず枝肉価格はこの時期としては異例の低価格で推移。売上高が落ち込む中、経費は不変。よって収益は伸びず厳しい状況。今月は、新型インフルエンザによる外出を控える家庭が多くなり、この要因もあると考えられる。

●小売（水産物）／本年度上期の実績では、売上高、客数とも対前年比で7%の落ち込みで現状下げ止まりの状況である。年末商戦に向けた好材料は見受けられず、せめてこのまま維持できればと考える。

●小売（電機製品）／総務省発のデジタル放送受信機普及率調査（9月）によると全国平均は69.5%で前回調査（3月）から8.8%上昇。山梨県においては、57.3%で前回より2.9%伸長したが、全国平均を下回り3番目に低い結果となった。今月の業況は、地デジ・エコポイント効果によりテレビ中心の需要が高まった。メーカー等の展示会でも、テレビのみ500台実販（前年比200%）全体金額前年比120%と好調。しかし、白物家電は、前年を割り込んでいる。来年度においても、エコポイントの継続を期待したい。公共施設や地デジ調査など関連事業が好調なため、当組合においては組合員数が増加傾向にある。

●小売（事務機文具）／店頭販売は少し好転の兆しが見られる。企業、役所向けは特に厳しさが増している。

●小売（石油）／10月のガソリン・軽油・灯油等の元売仕切価格は原油価格の値下がりにより1円～2円の値下げとなり、各SSは適正価格の範囲内で販売した。（ガソリン1ℓ 129円）11月の各SSの販売価格は、10月積みの中東原油が78ドル台まで上昇したが、大幅な円高、ドル安でコストの上昇の大半が解消されるため小幅な上昇になると思われる。

●商店街／サラリーマンの残業が少なく、実質的に賃下げ状態で購買力低下。高級品の売れ行きが特に悪い。プレミアム商品券も大型店に集中。地元小売店に新規客現れず苦戦。当分この状態が続くものと思われる。

- 宿泊業**／宿泊の今月売上高は前年同月に比べ約5%、宴会は10～20%減少。特に学校、父兄関係の集まりが減少し、インフルエンザの影響もあるのではと推測される。今年11月から来年2月頃まで各社とも前年比を大きく下回ると予想している。忘新年会予約もホテルから居酒屋へ移行。価格面で太刀打ちできない現状。
- 美容業**／周りの店が価格を下げているため、美容施術価格を下げなければ入店客数が増えない。景気に対する不安が売上に現れている。当分消費者は財布のひもが固い。
- 自動車整備**／さらに悪化する見込み。
- 建設業（総合）**／今年前半は景気浮揚策として公共工事の前倒し発注があったが、新政权となり今年後半の工事量を確保できるかが不明である。2010年度予算の概算要求は公共事業費に大なたが振るわれ、業界にとっては削減幅も前年比17%マイナスと厳しい内容になりそうで、公共事業に依存している土木工事業者にとっては厳しい先行きとなりそう。
- 建設（住宅関連）**／雇用と賃金の状態が不安定であるため、若年層が住宅取得に意欲が沸かない。
- 建設業（型枠）**／景気は年末に向けて公共工事の前倒しもあり、徐々に上向いてきているが、まだ例年ほど仕事が無く、民間工事が期待できない本県において来年以降が心配。
- 建設業（鉄構）**／鉄構業界を取り巻く環境は、鉄構需要量の著しい減少により、極めて深刻な状況にあり、ゼネコンの指値攻勢や過当競争から適正な品質を保証する価格には程遠いのが実情。景気回復の遅れから設備投資が出ないため来年も工事物件は無い状況にある。
- 設備工事（管設備）**／共同受注工事量が前年同期比に対して激減している。公道の水道管修理の減少は、管の材質等の向上により年々減少していくと思われ、管路維持管理に視点を向ける必要がある。
- 運輸（タクシー）**／経済全体が不況のため利用者が減少しており、特に夜間利用者が減っている。昨年に比べ売上は減少しており、今後の見通しはつかない。
- 運輸（バス）**／1年間の中で一番の繁忙期であるはずだが、いつもと違って稼働率は低下。原因は依然とした景気低迷により旅行が発生しない、新型インフルエンザの影響で計画した旅行が取り消し、などである。
- 運輸（トラック）**／一部の荷主企業において、運賃値下げに向けた動きがある。特に製造業関係の荷主において荷動きが悪化している。
- その他（介護）**／需要はあるが、慢性的人手不足。